

事業の背景・目的

特定外来生物アルゼンチンアリの分布状況を把握

本市では、地域が取り組むアルゼンチンアリの「一斉防除」を推進しているが、アルゼンチンアリが発見されてから約30年経過し、現在の取組が現状と合っているのか、どの範囲まで生息が広がっているのか、把握できていない実情があった。よって、令和3年度から令和4年度の2箇年にかけて、廿日市市の全域を対象にアルゼンチンアリの分布状況を調査し、その結果を今後の防除の方向性を検討するための基礎資料とする。

事業の内容

2箇年にわたって100地点の分布状況を調査

令和3年度は市内の公共施設50箇所を選定し、令和4年度は令和3年度の調査地点以外の場所や周辺の宅地等について、生息が不明確な50箇所を選定し、アルゼンチンアリの分布状況を調査した。2箇年の分布状況調査の流れについては、次のとおりである。

- ①分布状況調査箇所を選定
- ②業務委託契約した業者がアリを採集
- ③連携企業がアリを同定
- ④香川大学が独自の調査結果を市に提供
- ⑤業務委託契約した業者が分布図を作成
- ⑥分布図を基に専門家会議を開催し、今後の方向性等を協議

今回の分布状況調査で撮影された特定外来生物アルゼンチンアリ



得られた成果

沿岸部（廿日市・大野地域）で広範囲に分布が確認

分布状況調査によって、本市の中でも地域によって分布状況が異なっていることが分かった。この結果をHP等で公開し、自治会等に情報提供することで次年度以降の防除の参考とし、地域における取組が実情と合っているか意見を吸い取りたい。

調査結果については、右の表のとおり、廿日市・大野地域では広範囲に分布、佐伯・吉和地域では佐伯地域の一部のみで分布、宮島地域では令和3年度の調査で1地点のみ生息を確認されたが、令和4年度の調査で生息が確認されなかった。

重複地点について反映した分布状況調査結果

項目 地域	市		香川大学		合計	
	調査地点	生息確認地点	調査地点	生息確認地点	調査地点	生息確認地点
廿日市地域	32	20	55	34	87	54
佐伯地域	12	2	0	0	12	2
吉和地域	3	0	0	0	3	0
大野地域	43	23	7	2	50	25
宮島地域	9	1	0	0	9	1
広島市佐伯区			10	5	10	5
合計	99	46	72	41	171	87